

市議会だより

11.15

No.51



委員会にて慎重な議論	③ページ
平成29年度の決算を認定	④ページ
一般質問 6人が登壇	⑧ページ
9月定例会の審議結果	⑪ページ

**黄金川保育所の運動会が
10月7日開催されました。**

親子ダンスの最後は「高い高い」とハグで子どもたちの笑顔があふれました。

9月定例会

市民生活の円滑化、災害復旧の効率化実現へ 災害対策費、福祉の充実に向けた補正予算など 全議案等を認定、可決及び採択

詳細かつ慎重な審査を

委員会付託案件

議案等の詳細な審査と結果の報告を委員会に委ねることを「委員会付託」といい、付託された委員会は審査の結果を本会議で報告します。ここでは各常任委員会で審査された案件等の一部を掲載しています。

会期日程

- 9月4日 ◎開会
 - 会期の決定
 - 会議録署名議員の指名
 - 議案等の上程
 - 提案理由の説明
 - 請願紹介議員の説明
 - 決算審査特別委員会の設置
 - ◇決算審査特別委員会
- 5・6日 (考案日)
- 7日 ○一般質問 (5人)
- 10日 ○一般質問 (1人)
 - 議案等の質疑
 - 議案等の委員会付託
- 11・12日 ◇常任委員会
- 18～21日 ◇決算審査特別委員会
- 25・26日 (事務整理日)
- 27日 ○議案等の審議
(委員長報告 質疑・討論・採決)
 - 追加議案等の上程
 - 提案理由の説明
 - 追加議案等の審議
(質疑・討論・採決)
 - 諸般の報告
 - ◎閉会

平成30年第3回定例会は、9月4日から9月27日までの24日間の日程で開催されました。開会日に報告5件、議案22件、意見書案1件、請願1件が上程され、提案理由の説明が行われました。

本定例会では6人の議員が、平成29年7月九州北部豪雨で被災された方への支援、復旧復興、今後の市政運営などについて一般質問を行いました。議案等は質疑を行った後、常任委員会、決算審査特別委員会にそれぞれ付託され、慎重に審査を行いました。

決算審査特別委員会では、4日間の審査期間を設け、平成29年度の一般会計歳入、歳出決算の状況を審査しました。最終日に各委員会から審査結果の報告を受け、質疑・討論、採決を行い、全議案、意見書案及び請願書を認定、可決及び採択しました。

議会を身近に 傍聴にぜひおいでください



傍聴受付票

記入の上、受付箱に入れてください。

氏名又は団体名	
住所又は所在地	朝倉市 事務のきほくろからご記入ください
団体の場合、次の事項も記入してください。	
代表者名	傍聴者数 人

本会議、予算・決算審査特別委員会は自由に傍聴できます。傍聴される方は、本庁4階議場入口に備え付けの傍聴受付票(左記)に記入の上、入場してください。

更新に伴い市職員、教職員のパソコンを購入します

総務文教常任委員会

9月定例会で付託された議案1件と請願1件を審査しました。

★財産の取得について

市職員が使用しているパソコン128台、中学校教職員が使用しているパソコン29台、計157台のパソコンを更新します。

パソコンを購入するにあたり、指名競争入札を執行し、株式会社富士通エフサス九州支社福岡支店が落札しました。

委員会では、全員異議なく原案のとおり可決しました。

★子どもたちの教育環境の改善のため請願を採択

日本はOECD諸国に比べ、一学級及び教員一人当たりの児童生徒数が多いこと。障がいのある子どもへの対応やいじめ、不登校などの課題を解決する必要があること。また、文部科学省が

公表した教員勤務実態調査の結果、長時間労働是正の必要があること。これらの状況から、少人数

学級の推進を含む教職員定数改善が本請願の一点目の趣旨です。

次に、教育の機会均等と水準の維持向上を図るためには条件整備が不可欠であり、地方自治体の財政を圧迫させることのないよう、国の施策として財源を保障するため、義務教育費国庫負担制度の負担割合2分の1への復元が二点目の趣旨です。

本請願は、市議会から国の関係機関に対し、教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度の負担割合の復元を求める意見書の提出を求めているもので、委員会では、請願の趣旨に賛同し、全員異議なく採択しました。

※経済協力開発機構

医療費の増加に歯止めをかけるための取り組みを進める

環境民生常任委員会

9月定例会で付託された議案7件を審査しました。

★平成29年度朝倉市国民健康保険特別会計歳入歳出決算を認定しました

本特別会計は、国民健康保険事業に係る事業勘定と朝倉診療所に係る直営診療施設勘定の2つの勘定が設定されています。

まず、事業勘定については、歳入歳出差引額は2億7309万9千円の歳入不足です。この不足分は平成30年度予算からの繰上充用を行うことで補填しています。なお、歳出額には前年度繰上充用として支出した約3億7千万円の累積赤字分を含んでおり、この累積赤字分を除いた単年度決算では約9500万円の黒字です。

今後も健診受診の勧奨や健康課で行っているステップ運動の推進など地道な活動を行い、病気の

早期発見や生活習慣の改善を促すことで、医療費の増加に歯止めをかけるための取り組みを進めていくとのことです。

次に、直営診療施設勘定については、歳入歳出差引額は1040万1千円です。歳出においては全身用X線CT診断装置を1782万円で購入し、より質の高い医療が提供できるようにになったとのことです。

委員会では、国民健康保険の財政健全化並びに直営診療施設運営における収入確保及び医療の質の向上に対する執行部の努力を認め、全員異議なく、原案のとおり認定しました。



健診を受けて健康寿命を延ばしましょう

災害公営住宅等の入居要件が緩和されます

建設経済常任委員会

★被災者に対する災害公営住宅等の優遇措置が図られます

災害公営住宅等への入居者資格となる世帯全員の月額所得額合計の上限を改正して、発災後3年間は25万9千円に緩和されます。3年経過後は、15万8千円に戻ります。

また、災害等特別な事由が認められる場合は、60歳未満単身世帯でも入居可能となります。

委員会では、被災者に対する優遇措置の改正として、全員異議なく、原案のとおり可決しました。

★奈良ヶ谷川の河川復旧工事を早と協定を結びます

九州北部豪雨災害で被災した普通河川奈良ヶ谷川(通堂川)下流の筑後川合流部から3152メートル上流の砂防堰堤までの河川復旧工事について、ため池2カ所、国道386号、堀川用水な

どを通過する関係上、事業調整や高度な技術が必要であり、県の高度な専門的技術を持った職員が担うことにより、1日も早い復旧がなされることから、全員異議なく、原案のとおり可決しました。

★平成31年度から上下水道事業の窓口業務を一本化して業務委託します

事務の効率化と人件費の削減が図られますが、住民サービスの低下を招くことがないよう、十分に委託業者と協議を行うことを確認して、全員異議なく、原案のとおり可決しました。



被災した奈良ヶ谷川

平成29年度決算 九州北部豪雨災害により

歳入歳出共に大幅増となる

※普通会計・・・地方財政状況調査上、統一的に用いられる会計区分です。このことにより、他の自治体と同条件で財政状況を比較することができます。本市の場合は、「一般会計」に「住宅新築資金等貸付特別会計」を合計したものになります。

平成29年度普通会計決算は、歳入総額392億7733万円、歳出総額363億8730万円となりました。

前年度に比べ歳入は31%92億9047万円の増、歳出は24.2%71億30万円の増となりました。

これは「平成29年7月九州北部豪雨」災害（以後豪雨災害）の復旧・復興事業等により、歳入歳出ともに前年度を大きく上回りました。しかし、執行部の努力もあり、歳入歳出差引28億9002万円、実質収支では8億3031万円の黒字決算となりました。

本決算は、歳入面では、主に特別交付税において、豪雨災害分として大幅な増となりました。

歳出面では、主に豪雨災害復旧事業及び災害関連事業による増、また被災者支援事業等による増となりました。

また、特別交付税の大幅な増額交付を受けたことにより財政調整基金を取り崩す必要がありませんでした。

今後、市議会としては、復旧・復興が最優先であるため、有効な財源の確保や事業の優先性を考慮し、これまで以上に行政改革や行政評価による事業の取捨選択を行い、更なる効率的な財政運営が行われているかなどを確認していく必要があります。

「災害復旧費」に
47億7270万円

豪雨災害による道路、河川、橋梁等の公共土木施設、農道、林道等の農林施設、小・中学校等の教育施設等の災害復旧工事に係る費用などです。

「災害救助費」に
8億3040万円

豪雨災害後の避難所の運営に係る費用や被災住宅の応急修理、障害物の除去費用などです。また、豪雨災害により被災された方への災害弔慰金や見舞金です。

「消防団運営事業」に
1億6410万円

消防団員の報酬、火災や災害警戒等の出動の費用弁償、消防団の車両や機器の整備・補修の費用などです。

「杷木統合新設小学校建設事業」に
12億660万円

杷木地域の松末小学校、杷木小学校、久喜宮小学校、志波小学校を統合した新設小学校を建設しました。

「被災者支援事業（農業者）」に
6億3470万円

豪雨災害により被災した農業者が営農再開に必要な機械の修繕、購入、施設の再建等に対して補助を行いました。

「プレミアム付商品券発行補助事業」に
5470万円

プレミアム商品券発行運営委員会へ商品券のプレミアム分について補助を行いました。

2回の商品券の発行を行い、復興支援プレミアム付商品券の発行総額は6億円となりました。



被災した比良松中学校
技術科教室棟





平成29年度 朝倉市会計別決算

区 分		歳 入	歳 出
一 般 会 計		392億7131万円	363億8128万円
特 別 会 計	住宅新築資金等貸付	620万円	620万円
	簡 易 水 道	6941万円	6941万円
	国民健康保険 (事業勘定)	80億5852万円	83億3162万円
	国民健康保険 (直営診療施設勘定)	2億5420万円	2億4380万円
	後期高齢者医療	8億7329万円	8億4942万円
	介護保険 (保険事業勘定)	56億 724万円	56億 664万円
	工業用地造成事業	55万円	55万円
	小 計	148億6944万円	151億 767万円
企 業 会 計	工業用水道事業	7億9824万円	6億5843万円
	水 道 事 業	8億6756万円	9億7398万円
	下 水 道 事 業	34億6562万円	39億8577万円
	小 計	51億3143万円	56億1820万円
合 計		592億7219万円	571億 716万円

※万未満切り捨てのため、計が一致していません。

【平成29年度普通会計歳入歳出決算の主な財政指標】

歳入総額	392億7733万円	前年度	299億8685万円
歳出総額	363億8730万円	前年度	292億8700万円
経常収支比率	88.7	前年度	90.9
実質公債費比率	8.1	前年度	8.6
財政力指数	0.53	前年度	0.54
基金現在高	151億9789万円	(前年度比17億9799万円増)	
地方債現在高	296億5140万円	(前年度比25億2742万円増)	



甘木集積場に集められた災害ごみ

「ふるさと応援寄附金事業」に
2億2050万円

ふるさと納税制度をPRし、5億9444万円の寄附をいただきました。寄附をいただいた方へのお礼品の費用などです。

「学生消防団員奨学金給付事業」に
90万円

市外へ通学する大学生等に対して、消防団に入団され、要件を満たした方に給付型の奨学金を支給しました。平成29年度は4名の方に奨学金を支給しました。

「子ども医療費支援」に
1億5860万円

就学前の幼児の医療費無料化、小学生の医療費の一部助成、中学生の入院に係る医療費の一部助成を行いました。

「災害等廃棄物処理事業」に
6億2070万円

豪雨災害により発生した災害ごみ(ごみ混じり土砂含む)を収集、運搬し、処理を行いました。また、被災した家屋の撤去、処分を行いました。

平成29年度の一般会計歳入歳出決算については、「決算審査特別委員会」を設置し、4日間の日程で審査を行いました。審査の中で行われた質疑と答弁を抜粋して紹介します。

Q 市のホームページの利用状況は

A 平成29年度は約95万アクセスがあった

Q 市民に対する情報提供について、市のホームページの利用状況は。

A 平成29年度はトップページに総計95万5855アクセスがあった。

Q ホームページで行政手続きなどを見ていたが、分かりづらいものもあった。ホームページの満足度を把握しているのか。

A ホームページの見やすさについて、平成29年度のアンケートは、回答数が約5300件であった。

結果は、見つけやすさについては、「見つけやすかった」71.7%、「見つけにくかった」18.4%。内容のわかりやすさについては、「わかりやすかった」69.4%、

「わかりにくかった」20%。内容が参考になったかについては、「参考になった」75.2%、「参考にならなかった」15.1%であった。

Q ホームページの見にくいところなどを改善する対策をとっているのか。

A ホームページには、御意見がある場合にメールを戴けるよう、担当部署のメールアドレスを載せている。十分な満足が得られていないとは考えておらず、各担当部署にコンテンツの見やすさ、わかりやすさを心がけてもらうよう努力してもらっている。

Q 特別会計及び企業会計は独立採算制を保持すべきではないか

A 各会計等で最大限努力する

Q 特別会計及び企業会計は独立採算制を保持すべきだと考える。

A 特別会計では、国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療に計26億4908万円が、企業会計では、水道、工業用水道、下水道に計10億3091万円が一般会計から繰り出されているが。

A 特別会計は社会保障関係の医療費などが主でほぼ義務的経費と言える。繰出金の



誰もが見やすく
わかりやすいホームページへ

中には国庫支出金や県支出金を一般会計で受け入れ、市費を加え、繰り出しを行うものがある。平成29年度決算では実質的な市費は約20億9千万円である。前年度は約21億5千万円であった。各特別会計とも様々な取り組みを行い、繰出金の縮小に繋がると期待している。

企業会計は独立採算制により運営されること、基本と考える。簡単に一般会計からの繰り出しは考えていないが、市として必要な政策的なものについては基準外繰り出しも行って

各会計等で最大限努力し、一般会計の財政状況も勘案し、繰り出しを行っていく。

Q ふるさと応援寄附金充当事業の内容は

A ふるさと応援寄附金約4億円を60の事業で使わせていただいた

Q 地域振興基金の取り崩しについて、ふるさと応援寄附金充当事業の内容は。

A ふるさと応援寄附金を戴く方に「心豊かに、人が輝くまちづくり事業」、「指定なし」などの6項目から選択していただき、平成29年度に4億11万9000円の寄附を戴いた。

平成29年度は「心豊かに、人が輝くまちづくり事業」で12事業、「人と人が助け合い、安心をもちますまちづくり事業」で14事業、「豊かな地域資源を活かした産業活動を展開するまちづくり事業」で11事業、「自然と共生する循環型社会を築くまちづくり事業」で10事業、「新しいふるさととして定住をうながすまちづくり事業」で6事業、「指定なし」で7事業、計60事業に寄附金を使わせていただいた。



「ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）」パンフレット
たくさんの方々に応援していただいています

Q 学校給食の残食にどう対応しているのか

A 残食量の減少に努めている

Q 学校給食の残食にどのように対応しているのか

A 残食は廃棄している。市全体の残食量は、平成28年度2306kg、平成29年度2108.7kgと約198kg減少しており、市全体での取り組みは効果を上

げていると考える。残食は、ただ廃棄するのではなく、二次利用も考えるべきでは。

A まずは残食量をゼロに近づけることにしている。

A 残食の二次利用は今後出来る可能性があるか検討したい。

Q 水源かん養基金を取り崩して何を行ったのか

A 水源林の造林事業の推進などを行った

Q 水源かん養基金の取り崩しについて、森林整備事業約3400万円で何が行われたのか

A 水源林の造林事業の推進のため、森林の下刈り、間伐などを行った。また、森林管理用作業道路整備事業、公有林の広葉樹林化事業、有害鳥獣の被害対策充実のための事業を行った。

Q 平成29年度は災害があり大変な状況の中で、こうした森林整備事業は行われたのか

A 可能な限り、出来る事業は行ってきた。

Q 消防団員の条例定数と実団員数は

A 条例定数979名、実団員数814名で165名が不足している

Q 消防団の条例定数と実団員数は。また、各分団間の地域差について協議はなされたのか

A 条例定数は979名、現在の実団員数は814名で165名の不足が生じている。

A 合併から10年が経過し、市の人口が減少、同様に20代から40代の人口も減少している。条例定数が合併当初からそのままだが、折に触れ、定数条例がこのままでいいのかを分団、団本部とも協議している。今後も議論を深めて行きたい。

Q 消防団員の充足率が83.1%と前年度に比べ5.9ポイント減少している。

A 学生消防団員奨学金給付事業を行っても減っており、周知徹底や事業内容も精査して充足率を上げていくべきではないか。

A 現在、消防団協力事業所表示制度や学生消防団員奨学金給付事業などを行っている。学生消防団員奨学金給付事業により、若いうちから地域に愛着を持って、消防団への理解を深めていただき就職の際に地域から通っていただく趣旨がある。こうした制度を使いながら引き続き団員を確保したい。また、制度の周知はホームページ、分団長会議などで行っている。

平成30年度は議会報告会を休会します

昨年の朝倉市議会報告会は、平成29年7月九州北部豪雨災害により休会していましたが、本年度も休会することといたしましたので、お知らせいたします。



その理由といたしましては、現在朝倉市は災害に対して復旧復興を急ピッチで進めています。

そのような中で、議会が協議を重ねた結果、一今の状態で進めても本当に意義があるのか、「もう少し先に充実した内容で行ったほうがいいのか」との意見が多数を占め、議会報告会検討委員会として、苦渋の決断をした次第です。

しかしながら、議会報告会はしっかりやってくという認識のもと、どのような形で開催するのがいいのかをしっかりと見極め、研究をし、来年

参加しやすく、わかりやすい議会報告会を目指します



造林のため植えられた苗木と鹿防護柵

災害に強い

安心安全なまちづくりへの

課題を問う

質問者6人、傍聴者23人

一般質問は、年4回開催される定例会の中で行われます。

ここに掲載したものは抜粋ですので、全文については、会議録を閲覧されるか、市議会のホームページでご確認ください。

佐々木 明子 議員

質問項目

- 1 学校に行きづらい児童・生徒への対応について
- 2 平成29年7月九州北部豪雨による被災者への支援について



Q 学校に行きづらい子どもは全国的に増加傾向にある。朝倉市の現状と取り組む

みを尋ねる。

A 不登校の要因として、家庭環境変化・学業不振・友人環境問題などが多くを占めている。朝倉市において不登校の子どもは、昨年と比べて増加傾向にある。取り組みとして、教育相談コーディネーターを中心に学校内にチームをつくり、

組織対応している。学校内で対応できないケースは、適応指導教室の指導員など

でつくる教育委員会の学校支援チームで対応している。

Q 朝倉市は適応指導教室が一教室である。指導員も3名で少ない。不登校支援のNPO法人と協力して、学校内に適応指導教室のモデル事業が出来ないか。

A 不登校の様相は以前と変わっている。学校復帰を前提に、子どもに応じた形でいろいろな手法を取り入

れていくことが大事だと考える。

Q かさ上げをして自宅跡地で住宅再建を望む被災者への支援として、河川等の工事で発生している土砂を活用することが出来ないか。

A 流出した住宅地の造成について、土砂の再利用などを制度化できるよう国へお願いしている。

Q 自宅跡地で再建を望む被災者への支援策は

A 住宅地の造成に土砂の再利用を国に陳情

帯、みなし仮設住宅263世帯、公営住宅29世帯、自力みなし住宅44世帯、在宅被災世帯631世帯、合計1052世帯中1032世帯の訪問を終えた。毎月2回個別ケース会議を行い、様々なニーズ、不安等の解消に努めている。



自宅跡地で再建を望んでいる被災者もいます

有害鳥獣の被害は大きい、どう立ち向かう

電気柵の整備、駆除部会へ業務委託している

税の意思があると判断する。納税の意思がないと判断すれば処分に踏み切る。取納対策は単なる取り立てでなく、最終的な配慮のない処分をすることにより企業を倒産させたり、朝倉市から追い出したりするとは考えていない。滞納者、企業などへの支援制度もあり、支払い困難などの相談は、取納対策課にお願いしたい。

柴山 恭子 議員

質問項目

- 1 税の滞納について
2 有害鳥獣対策について
3 災害に強いまちづくりについて



滞納繰越分固定資産税

は依然として10億円以上あるが、財政が非常に厳しい中、なぜ公売等に踏み切らないのか。

分納誓約の一時的な不履行があっても面接に応じわずかでも入金があれば納

取納向上への対策は。

現年分徴収率の向上、滞納処分の強化、ファイナシヤルプランナーによる生活改善型納税相談事業の3点を柱に重点的に取り組む。

有害鳥獣による被害は

大きく、農産物への被害防止対策と有害鳥獣駆除はどのように行われているのか。

平成23年度から交付金

旧甘木市には動物用の

焼却できる施設があった。アライグマなどをわな猟等で捕獲した後の処分についているという声が多いと今判断している。

捕獲した後の処分に

昔あった動物の焼却施設については、考えていきたい。



有害鳥獣は広域圏で施設整備に向けて動き出す時

市の政策を打ち出す組織は朝倉市役所である。市

職員の意見を吸い上げ、一人一人の持てる力を十二分に発揮するため、目安箱を設置してはどうか。

職員の提案は、組織を

活性化させ、市民サービス

の向上に資すると考えてい

る。職員提案制度の再開も含め、研究したい。

空き家バンクについて

市内に多くの空き家がある。技能実習生の受け入れ等に有効活用してはどうか。

技能実習生について

は、研修期間が3年と短く、空き家バンク制度の活用は今のところ困難である。

市をアピールするアイテム

平成6年から12年間のちわが作られてきた。そのうちに、合唱曲「わたしのふるさとあさくら」等のメロディーにつながるQRコードを付けて販売すれば、手にした方が朝倉に親しみを覚え、また朝倉に戻るきっかけとなると期待できる。市の頑張りをおアピール

ルするアイテムとして、再

度導入してはどうか。

費用対効果も吟味し、

様々な形で復興のアピールを検討したい。

市営住宅の入居について

高齢者が転入する場合、人間関係の構築に時間がかかり、社会的に孤立する場がある。高齢者であれば、同じコミュニティ内の市営住宅へ優先的に入れるよう、配慮すべきでは。

市営住宅への入居は、

原則公募による抽選で行っている。福祉面を含めた住宅相談については、個別に対応したい。



以前導入したうちわ切手を貼れば送れます

渡辺 毅 議員

質問項目

- 1 朝倉市の運営の長期展望
2 市営住宅の入居・運営
3 学童保育



市職員の意見を聞くため目安箱設置は

職員提案制度の再開も含め、研究したい

境界線不明の被災者支援を国・県へ要請すべき

A しっかりと現状を踏まえて要請したい

防災ラジオの導入について

Q 市は、異常気象で土砂

村上 百合子 議員

質問項目

- 1 災害に強いまちづくりについて
- 2 学校教育行政について



Q 九州北部豪雨での土砂

災害で土地の境界線が不明となり、住居再建できない市民がいる。国や県に補助申請をすべきと考える。

A 国、県にしっかりと現状を踏まえて要請したい。

通学路にグリーンベルトの拡充を

Q 通学中の事故が多発し

ている。通学路の安全点検と、グリーンベルトの拡充をすることで、ドライバーの意識も変わらと思うが。

A 歩行者の安全確保やドライバーの認識をさせる効果があると考えている。計画的に進めていきたい。

登下校時の荷物の軽量化を

Q 重いランドセルやカバン

での登下校で、自転車の転倒事故等が発生している。軽量化の対策が必要と考える。
A あらゆる面から検討して、改善していきたい。

防災備蓄品に液体ミルクを

Q 水や燃料が確保できない災害時に、1日何度も授乳しなければならぬ乳児を持つ子育て世代への支援として、液体ミルクを備蓄できないか。

A まず、各家庭で非常用として準備して使っていたきたい。今後、研究していく。



もつと荷物を軽量化に

Q 地域支え合いセンターは、コミュニティやサロン活動等、皆さんが交流をして話す場づくりも必要ではないか。

A 今後、毎月第1土曜日に定期的に開催する予定。

国道322号西鉄甘木駅周辺整備について

Q 「相談した事の返事がない」等の声もある。気持ち

か。

A 平成31年度中の開通となる。



大庭 きみ子 議員

質問項目

- 1 九州北部豪雨災害に対する被災者支援について
- 2 国道 322 号の西鉄甘木駅周辺整備について
- 3 学校ブロック塀について

ちに寄り添って対応していくことが大事ではないか。
A 今後、特に気を配りながらきちんとしていく。

ブロック塀の整備について

Q ブロック塀の点検結果

について尋ねる。
A 小・中学校は対応すべきブロック塀が2カ所あり、9月に工事が完了。保育所は6カ所あり、補正予算議決後に撤去や改修を行う。

Q 民家でも老朽化しているブロック塀があると思うが、助成金を出すなど市の考えはないのか。

A 県の状況を見ながら、ブロック塀撤去の補助制度を検討したいと考えている。

Q そうなれば北九州と久留米を結び、アクセスも良くなり交通量も増加する。甘木駅前のクランク解消と広域拠点としての駅前周辺のまちづくりが、災害後の復興に大きなチャンスになると思う。定住人口を増やし、経済活性化につながる魅力あるまちづくりのビジョンが大事ではないか。



地域の復興のために心の支え合いセンターに期待

地域支え合いセンターの役割充実について

A 復興推進室と連携し、様々な課題に当たる

Q 農地災害復旧における区画整理型の今後の展望は。

A アンケート調査を行い、概要の把握を行った。流失した耕作土の確保が課題だが、平野部に流れ込んだ粘性土等を活用した畑作の実証実験を行い、概ね良



稲富 一實 議員

質問項目
1 夢ある朝倉市政の共創について

Q 農地災害復旧の区画整理型の展望は

A 耕作土確保のための実証実験を行っている

Q ポンプ操法大会は、団員数の少ない分団は隔年での取り組みにできないか。

A ほかの行事等も含めて団の考えを十分に尊重し、関係機関とも協議を行いながら適宜整理していきたい。



松末（赤谷川沿い）の実証実験ほ場

Q 様々な制度により入団を促しているが、取り巻く環境の変化などにより団員の確保は依然として厳しい。地域防災を担う消防団の報酬などが適正か、今後慎重に検討していく必要がある。また、指揮車等設備の更新時期も十分に検討したい。

Q 厳しい経営が予想される。配水管の更新には莫大な費用を要するため、組織体制や料金改定も含めた抜本的な見直しは必要と考えているが、優先順位を決めて計画的な更新を進め、極力水道料金に影響を及ぼさないように努力したい。

A また、地下水を使用している地域の水の安全確保は重要であり、発災後の諸般の事情を総合的に判断し、検討を進めていきたい。

Q 消防団員が条例定数から165人不足している現状がある。待遇の改善や施設の整備を行う必要があるのではないか。

A 好であった。平成31年度には水田の実証実験を計画している。

Q 水道事業の収支、料金改定の見直し、老朽化した配管施設の更新など、今後の水道ビジョンは。

A 配水管の更新には莫大な費用を要するため、組織体制や料金改定も含めた抜本的な見直しは必要と考えているが、優先順位を決めて計画的な更新を進め、極力水道料金に影響を及ぼさないように努力したい。

9月定例会で審議した議案等の結果です

◎…全会一致
○…賛成多数
※…討論あり

議案番号	議案の件名	議案の内容	
総務文教常任委員会			
第107号議案	財産の取得について	市職員及び中学校教職員が使用するパソコン157台を取得するもの 取得価格 12,708,198円 契約の相手方 株式会社富士通エフサス九州支社福岡支店	◎可決
30請願第1号	「少人数学級推進などの定数改善」「義務教育費国庫負担制度2分の1復元」にかかわる意見書の提出を求める請願書		◎採択
環境民生常任委員会			
第88号議案	平成29年度朝倉市住宅新築資金等貸付特別会計歳入歳出決算の認定について		◎認定
第90号議案	平成29年度朝倉市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について		◎認定
第91号議案	平成29年度朝倉市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について		◎認定
第92号議案	平成29年度朝倉市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について		◎認定
第99号議案	平成30年度朝倉市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について		◎可決
第100号議案	平成30年度朝倉市介護保険特別会計補正予算（第1号）について		◎可決
第104号議案	朝倉市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部が改正されたことに伴い、規定を整備するもの。	◎可決

9月定例会で審議した議案等の結果です

◎…全会一致
○…賛成多数
※…討論あり

議案番号	議案の件名	議案の内容	
建設経済常任委員会			
第89号議案	平成29年度朝倉市簡易水道特別会計歳入歳出決算の認定について		◎認定
第93号議案	平成29年度朝倉市工業用地造成事業特別会計歳入歳出決算の認定について		◎認定
第94号議案	平成29年度朝倉市工業用水道事業の利益の処分及び決算の認定について		◎可決及び認定
第95号議案	平成29年度朝倉市水道事業の利益の処分及び決算の認定について		◎可決及び認定
第96号議案	平成29年度朝倉市下水道事業の利益の処分及び決算の認定について		◎可決及び認定
第98号議案	平成30年度朝倉市簡易水道特別会計補正予算(第1号)について		◎可決
第101号議案	平成30年度朝倉市水道事業会計補正予算(第1号)について		◎可決
第102号議案	平成30年度朝倉市下水道事業会計補正予算(第2号)について		◎可決
第103号議案	朝倉市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	農業委員会等に関する法律の一部が改正されたことに伴い、農業委員会の委員等の報酬について、規定の整備を行うもの。	◎可決
第105号議案	朝倉市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について	平成29年7月九州北部豪雨で被災された方が災害公営住宅等に入居する場合の収入要件及び入居資格の特例要件を緩和するもの。	◎可決
第106号議案	工事委託に関する協定の締結について	ナラガタニガワトオボウガワ(通堂川) 災害復旧工事 協定額 2,688,744,000円 協定の相手方 福岡県	◎可決
第108号議案	市道路線の認定について	バンショウタ 1号線、バンショウタ 2号線(来春)、門田5号線(堤)、木船1号線(甘木)、キョウヅカ・メエダ 1号線(長田)	◎可決
決算審査特別委員会			
第87号議案	平成29年度朝倉市一般会計歳入歳出決算の認定について		◎認定
その他			
報告第15号	専決処分の報告について(交通事故による損害賠償について)		報告済
報告第16号	専決処分の報告について(交通事故による損害賠償について)		報告済
報告第17号	平成29年度朝倉市健全化判断比率等の報告について		報告済
報告第18号	平成29年度甘木鉄道株式会社の決算について		報告済
報告第19号	平成30年度甘木鉄道株式会社の事業計画について		報告済
第97号議案	平成30年度朝倉市一般会計補正予算(第2号)について		◎可決
意見書案第1号	地方財政の充実・強化を求める意見書		◎可決
意見書案第2号	「少人数学級推進などの定数改善」「義務教育費国庫負担制度2分の1復元」を求める意見書の提出について		◎可決
発議案第2号	議員の派遣について		◎可決

9月補正予算

一般会計39億1千万円を増額

うち平成30年度災害関連経費に32億6千万円

9月補正予算の主なもの

《一般会計》

39億1848万円

- ・前年度決算余剰金による減債基金積立金 4億2000万円
- ・ブロック塀撤去等対応経費 1305万円
- (旧市町村会館・コミュニティ施設内、公立保育所内、公園内、体育施設内)
- ・旧松末小学校管理経費 130万円
- ・平成30年7月豪雨災害被災地域へのボランティア派遣等経費 140万円
- ・認定子ども園（保育所機能）の利用者増に伴う施設型給付費 2400万円
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所開設準備補助金 1029万円
- ・甘木Ⅱ学童保育所建設経費 352万円
- ・被災した農家等に対する品目転換による農業再開補助金 1億1700万円
- ・被災した中小企業者の事業再建及び経営安定のための借り入れに対する利子補給金 59万円
- ・福田小学校屋上防水改修工事 2600万円
- ・農地農業用施設災害、林道災害復旧事業費 17億8900万円
- ・道路橋りょう災害、河川災害復旧事業費 14億6866万円
- ・公園災害復旧事業費 930万円
- ・国指定天然記念物災害復旧事業費 16万円

《国民健康保険特別会計 直営診療施設勘定》

6580万円

- ・医薬品購入経費 5300万円
- ・医療用機器購入経費 240万円

《介護保険特別会計》

1327万円

平成30年7月豪雨により被災した甘木公園と馬田遊水公園の災害復旧工事の費用です。

「公園災害復旧事業費」に
930万円

平成30年7月豪雨で被災した市道



平成30年7月豪雨により被災した道路、橋梁、河川の復旧工事などの費用です。

「道路橋りょう災害、河川災害復旧事業費」に
14億6866万円

平成30年7月豪雨で崩れた甘木公園の斜面



平成30年7月豪雨で寸断された林道



平成30年7月豪雨により被災した農地、農業用施設、林道の復旧工事などの費用です。

「農地農業用施設災害、林道災害復旧事業費」に
17億8900万円

地方財政の充実・強化を求める意見書

意見書

【意見書要旨】

1. 社会保障、災害対策、環境対策、地方交通対策、人口減少対策など、増大する地方自治体の財政需要を的確に把握し、これに見合う地方一般財源総額の確保をはかること。
2. 子ども・子育て支援新制度、地域医療の確保、地域包括ケアシステムの構築、生活困窮者自立支援、介護保険制度や国民健康保険制度の見直しなど、急増する社会保障ニーズへの対応と人材を確保するための社会保障予算の確保及び地方財政措置を的確に行うこと。
3. 災害時においても住民の命と財産を守る防災・減災事業は、これまで以上に重要であり、自治体庁舎をはじめとした公共施設の耐震化や緊急防災・減災事業の対象事業の拡充

と十分な期間の確保を行うこと。

4. 地方財政計画に計上されている「まち・ひと・しごと創生事業費」については、自治体の財政運営に不可欠な財源となつていことから、現行水準を確保すること。
5. 自治体基金は、財政調整や特定目的のために積み立てられているものであり、当該自治体の財政に余裕があつて積まれるものではない。従つて、自治体基金の残高を理由に交付税の削減等を強行しないこと。

【提出者】

- 大庭きみ子 稲富 一實 佐々木明子 小島 清人

全会一致で可決し、関係機関に意見書を提出しました。

12月議会 会期日程(予定)

- 12月5日 ◎開会 ○会期の決定 ○会議録署名議員の指名 ○議案等の上程 ○提案理由の説明
6・7日 (考案日)
10・11日 ○一般質問
12日 ○一般質問 ○議案等の質疑 ○議案等の委員会付託
13・14・17日 ◇常任委員会
18・19日 (事務整理日)
20日 ○議案等の審議 (委員長報告 質疑・討論・採決) ○諸般の報告 ◎閉会

12月定例会の会期日程は、11月30日(金)開催予定の議会運営委員会に変更になる場合があります。

請願書

【請願事項】

1. 子どもたちの教育環境改善のために、計画的な教職員定数改善を推進すること。
2. 教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、義務教育費国庫負担制度の負担割合を2分の1に還元すること。

【請願者】

福岡県教職員組合 朝倉支部 支部長 下田 哲士 大庭きみ子

請願書を全会一致で採択し、子どもたちの教育環境改善のために施策を講じるよう、関係機関に意見書を提出しました。

お詫びと訂正

あさくら市議会だよりNo.50 12ページ(最終ページ)の朝倉市教育委員会教育長の宮崎成光氏のお名前に誤りがありました。深くお詫びして、訂正いたします。

(正) 宮崎 成光氏 (誤) 宮崎 茂光氏

編集後記

朝倉の魅力を探り、地方創生・地域活性化のアイデアをと、朝倉商工会議所が復興支援事業として福岡都市圏の11名の女性を招待して視察ツアーを行った。

美味しいフルーツや自然・景観・歴史など朝倉ならではの豊富な魅力を確認する一方、サービスマンでの改善点など、内側からでは見えない課題点も数多く指摘された。

地方創生は行政だけではできない。そのような意見とどのように向き合うか。民間と行政をつなぐことが我々市議会にどれだけできるか。本気度が試されている。

広報委員会

- 委員長 村上百合子 副委員長 重松 一英 委員 浅尾 静二 堀尾 俊浩 佐々木明子 和田 庄治